

三種の神器

副会長 間瀬憲一



神武景気と呼ばれた 1950 年代後半の高度経済成長時代、人々の暮らしのあこがれとして、三種の神器という言葉が流行しました。白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機です。更にいざなぎ景気と呼ばれた 1960 年代後半にはカラーテレビ、クーラー、カーの 3C が新三種の神器として豊かな生活の象徴となりました。1964 年の東京オリンピックもカラーテレビの普及を後押ししました。隔世の感があります。

地球規模で低炭素社会、持続型社会への変革が要請される中で米国オバマ政権によるグリーンニューディール政策発表も契機となり、スマートグリッド、スマートシティ、スマートコミュニティ等の概念が注目を集めています。福島原発事故はその機運を加速しています。スマートコミュニティのイメージは様々ですが、私は食・エネルギーの地域自給、大規模災害への耐力、高齢化社会における生活の質の向上、地域インフラ維持のための協働等をイメージしています。スマートコミュニティ時代の三種の神器とは何でしょうか？ 神話の時代の三種の神器とは、剣、鏡、勾玉でした。そこで剣をエネルギー基盤、鏡を ICT 基盤、勾玉を電気自動車 (EV) に対応させてみました。剣は狩りの道具であり、まさに食・エネルギーを示唆します。鏡は光通信、最近のはやりでいえば「見える化」の道具であり、まさに ICT 基盤を示唆するといえるでしょう。勾玉は幸運を呼ぶ宝物であり、EV はスマートコミュニティの宝物といえるのではないのでしょうか？ 定員 1~2 名の超小形 EV が注目を集めています。試算してみると太陽電池パネルによる発電のみで 1 日 10 km 程度走行の可能性があります。機械部品が少ないため保守も容易です。このため足腰の弱くなった高齢者のコミュニティ内移動支援に適しています。これにより高齢者の外出機会が増え、コミュニティの活性化が期待できます。EV、歩行者、交通信号機に GPS、アドホック通信機器を搭載して安全運転支援を実現することにより交通事故死 0 の夢の実現が近づきます。大容量のバッテリーを搭載しているので、駐車時にも他の EV 等と通信可能であり、コミュニティにおける夜間防犯ネットワークにも活用できます。大規模災害時に通信インフラが壊滅状態になっても、EV を携帯基地局のバッテリー充電に活用して通信サービスの途絶防止が期待できます。更に EV を配置するだけで臨時ネットワークを短時間に構築可能です。このように EV は ICT 基盤のディペンダブル化にも大いに貢献すると期待しています。

スマートコミュニティの実現に向けて学会活動の一層の活性化が期待されます。電子情報通信分野に優秀な人材を取り込むためには、中学、高校といった若い世代への働きかけが不可欠です。このため、学会の学部・大学院教育への一層の関わり、大学 1 年を学会入会適齢期とし、入学オリエンテーションでの学会紹介・入会案内、大学横断的な卒業研究機会提供のための調整、就職活動時の学生員に対する学会公式推薦書の発行による就職支援等、様々な施策が今後検討されてよいと思います。大学に人材供給を期待する地域企業への学会のプレゼンス向上にもつながります。学会支部活動に新たに国際化の視点を加え、支部内の留学生支援を行い、母国の大学に戻った後も継続的なフォロー・連携を行うことも学会の国際化、アジア地域での学会プレゼンス向上、産業界の国際連携推進に有効と思います。昨年制定された学会の理念の中でも会員のための学会から社会へ貢献する学会への変革が意識されています。スマート社会の実現に向けて学会の可能性は限りなく大きいと感じるこの頃です。